

主な記事

ステージアップ

Stage Up

- ・言葉を紡ぐ声の文学ワールド
朗読の会「蘆笛」
- ・障害児者の秘めた能力を発掘する
「ダンウェイ株式会社」
- ・特集 子どもの権利条約フォーラム
2021 in かわさき

詳細・他記事等

◆施設めぐり

・地名資料室

川崎に限らず
全国の地名に
関する資料がずらり

◆財団情報

・川崎市生涯学習プラザ
夏の報告

『たのしいキッズセミナー』

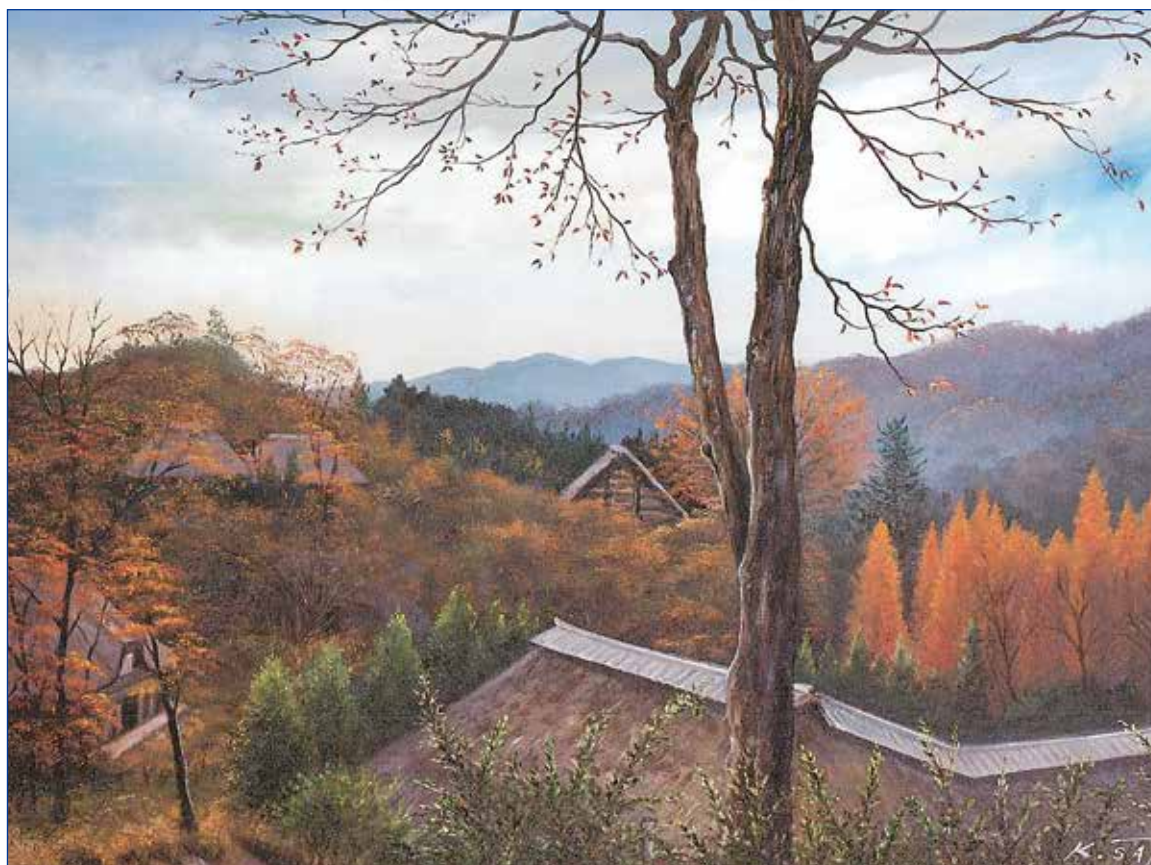
『はじめてのスクラッチ』

『子ども陶芸教室』

◆財団からのお知らせ

・お楽しみコーナー
クイズに答えよう!

◀1972年 油彩



<川崎百景>さとう菊夫シリーズ⑱ 枅形山(多摩区)

豊かな自然が息づく生田緑地。その中にふくまれる「枅形山」は、稲毛荘の領主・稲毛三郎重成の山城のあったところです。山頂は正方形の平地で、「その四方は刀をもって削り去ったような絶壁で眺望もよく天然の要塞をなしている。その名も形が枅形に似たところに由来」して枅形山ともよばれてきました。重成は北条政子の妹・文子を妻とし、源頼朝の重臣として活躍しましたが、頼朝の死後、北条氏によって謀殺されて悲劇的な結末をむかえました。

北側にある「飯室山」からは、7世紀中頃から12世紀後半にかけて築造された横穴墓群が発見され、骨や歯などのほかに、金環・管玉・小玉・銅釧(どうくしろ=腕輪)・鉄鍬(てつぞく=鉄製のやじり)などの副葬品が見つかっています。

緑に包まれた丘陵の奥深く、ふるさとの歴史は刻み込まれ息づいています。

【20数年～40数年前の川崎の四季、田園風景、名所、茅葺の民家、寺社仏閣等を描いてこられた、さとう菊夫さんの作品をシリーズでお届けします。シリーズ①～⑫は209号～220号、⑬～⑱は233号～238号】



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町28番41号

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

<https://www.kpal.or.jp/> E-mail: stage-up@kpal.or.jp



当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

言葉を紡ぐ声の文学ワールド 朗読の会「蘆笛」

朗読の会「蘆笛(あしぶえ)」が主催する『第24回蘆笛朗読散歩』(6月6日 ミューザ川崎 市民交流室)が開かれました。

蘆笛は、中学校の国語教師だった浅野幸雄さん(2020年



▲愛らしい和柄のプログラム

10月逝去)が立ち上げ、12年にわたって指導してきました。体調を崩し早期退職して家にいた浅野さんに、「朗読をやってみたら?」と娘さんが勧めたことをきっかけに軽い気持ちで始めたところ、朗読の奥深さに魅了され、朗読の会を立ち上げたそうです。当初のメンバーは浅野さんを含めて4人、現在は7人で活動しています。毎月1回の学習会、6月と12月の年2回、『蘆笛朗読散歩』という発表会を開催しています。

みんなで作り上げる

発表会前のひと月半は毎週集まって、発表する作品の朗読を練習します。普段は月に1回、みんなで選んだ一つの作品をみんなで読んで、みんなで鑑賞して勉強し合います。以前は浅野さんが助言していましたが、今はそれぞれの読み方の良いところを吸収し、おかしいところを指摘し合って、お互いに忌憚なく意見を言い合っています。

「浅野先生が最後に一言おっしゃってくださるとピシッと締まったのだけど、今はみんなで言いたいことを言うから締まりがなくなっちゃった(笑)」「私たちは、一人が一つの作品を作り上げるのではなくて、みんなでみんなの作品を作り上げていくという感じですね」と、互いに協力し合って、和気あいあいと活動している様子を話してくれました。



▲それぞれのスタイルで朗読するメンバーの皆さん

耳元に心地よく響く朗読を

メンバーの取りまとめ役を担っている芝則子さんは、「文字で書かれたものを聞いてもらうために、情景を自分たちで頭の中でイメージしたり、登場人物の気持ちになったり。作者の思いを噛みしめ、こうだったのか、ああだったのかと斟酌(しんしゃく)し、書かれた文字の世界を立体的に、聞く人のところに共感を得るように持っていく。それが大変でもあり、また楽しみでもありますね。発せられる言葉は、その人の人生、自分自身の体験とか学んだことから出てくるので、それぞれ重みがあります。楽譜は同じだけれども、弾く人によってイメージが変わるピアノと一緒に、読み手によって作品がちよっと変わってきます。それもまた朗読の楽しみ。同じ作品でも、Aさん、Bさん、Cさんで朗読のしかたが違い、イメージも変わってくるので、そういうのも鑑賞してもらえればいいなと思います」と、朗読の魅力を語ります。

秋の夜長、読書の時間も増えますね。今日は少し、声に出して読んでみませんか。

■ 問合せ

朗読の会「蘆笛」 芝 則子
TEL 03-3763-6838



▲受付でお客さまをお迎える浅野さんの奥さま智恵子さん

「第1回の朗読散歩の来場者は30人ほどでした。だんだんとお客さまが来てくださるようになり、コロナ前には120～130人の来場者がありました。朗読についてはメンバーの皆さまにお任せして、私は受付を担当しています」

障害児者の秘めた能力を発掘する 「ダンウェイ株式会社」



▲ 高橋陽子社長(あいもーる商店街内にある事業所の前で)

JR武蔵新城駅近くのアーケード商店街に、障害がある方々の就労を支援しているダンウェイ株式会社(以下、同社)があります。社長の高橋陽子さんには重度の知的障害の息子さんがいます。息子さんが3歳のときに障害があることが分かり、親として、なかなか受け止められない時期がありましたが、周囲の人に背中を押されて前を向くと、障害児者を取り巻く課題の大きさに直面しました。「待っていても変わらない。自ら課題を解決しよう。息子を含む、多くの障害がある人の秘めた能力を発掘・開花していきたい」との思いで、2011年に同社を立ち上げました。

その人なりの自立を目指す

就労支援から始まった同社は、就労前に生活力や社会での実践力を高める支援や放課後等デイサービスにも取り組み、切れ目のない寄り添う支援で「その人なりの自立」を目指します。

障害がある人は怖いとか、仕事ができないと周囲が考えるのは、その人のことが分からないからです。得意・不得意は誰にでもあります。一人ひとりのできること、できないことが分かれば、受け入れる側も対応しやすくなります。同社は、能力を可視化してPDCA(計画・実行・評価・改善のサークル)を回すようなツール、キャリアサポートカルテ「シームレスバディ」を開発しました。この能力の可視化が同社の特徴です。

厳しい雇用状況下でも、彼らが戦力になる付加価値をつけたいという願いを込めて、インテル社の協力を得て、重度の知的障害者や高齢者でも扱いの可能なホームページ制作ソフト「ICT治具」を開発し、販売しています。



▲「シームレスバディ」は、蓄積されたデータベースから、AI解析による合理的配慮や教材を提案する。



▲「ICT治具」のログイン画面。動物を乗り物に乗せることでログイン。使う人を選ばない直感的な操作性。

地域共生を目指す

地域共生の実現を目指すために立地にもこだわり、駅から歩いて来られる商店街の中に事業所を構えようと決め、場所を探しました。1階をガラス張りにし、道行く人からみんなが頑張っている姿が見えるように工夫しています。

スタート当初は苦情電話もありましたが、すぐに訪問して説明したり、商店街の会合に積極的に参加したり、商店街に入れてもらった感謝の思いを大事に親睦を深めてきました。11年目の今では応援してくれる人たちも増え、自立訓練(生活訓練)で行う買い物練習などに協力するお店も出てきています。

機会やきっかけは平等に

障害のある人や家族は様々な場面で、「できない」と周りから決めつけられ、あきらめなければならない。でも、「やってみなければわからない。機会やきっかけは誰にでも



▲ Unlocking!(ダンウェイの皆さん)

平等な世の中を作っていきたい。その人の得意とする力を見つけ出してそれを伸ばし、自立を実現する。誰もが支えて生きていく共生社会の実現を目指し、世の中を、日本を変えよう。私たちは本当に日本を変えようと思ってやっているんですよ」と、高橋社長は力強く話します。

最後に、「私は『ダン』の理念がすごく好きなんです。ダンの道で『danway』。ぜひ皆さんに知ってほしい」という卒業生の上野順子さんの熱い要望に応え、ご紹介します。

ダンウェイのDNA

- ダン** ドイツ語のダンケシェン=感謝
- 段** 階段にある踊り場で休みながら一歩一歩のたおやかな前進
- 団** 一人ひとりの表情が見える個の集合体としてのチームワーク作り
- 弾** バネやゴムマリのような弾力性、柔軟性のある発想
- 談** 常に相手の立場に立てる本物のプロフェッショナルとしてのコミュニケーション
- 暖** ホットする暖かさを創造できるオフィス空間と人間性

そんな想いが「ダン」デライオン シーズ(たんぼぼの種)のように、広く世の中に広がってほしいという思いを込めて…

■ 問合せ

ダンウェイ株式会社
TEL 044-740-8837
FAX 044-740-8838



ホームページ

特集

2021年度川崎市子どもの権利に関する条例施行20年記念事業

子どもの権利条約フォーラム2021 in かわさき

2021年11月6日(土曜日) 全体会 会場:川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)

7日(日曜日) 分科会 会場:川崎市生活文化会館(てくのかわさき)

川崎市立下作延小学校

川崎市子ども夢パーク 2階多目的ホール

ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては
完全オンラインの開催になることもあります。

主 催 者：子どもの権利条約フォーラム2021inかわさき 実行委員会
事務局団体：かわさき子どもの権利フォーラム(Kfrc)

子どもの権利条約フォーラムは、子どもの権利条約を普及、実施していくことに関心を寄せる人々の意見交換、出会い、交流の場として、1993年から全国各地で開催されてきました。

子どもの権利条約が国連で採択されて30年、日本が批准して25年が経過しました。川崎市では、子どもを一人の人間として尊重し、権利を守ろうと、日本で初めて子どもの権利の総合条例として「川崎市子どもの権利に関する条例」を制定し、2001年に施行しています。

条例施行から20年を迎える今年、川崎市でつくられた子どもの権利条約の理念や仕組みをもっと多くの人に知ってもらい、子どもを取り巻く環境の変化を検証し、子どもと大人が共に「自分らしく幸せに生きる」ことについて考え合うことを目的として、川崎でフォーラムを開催します。

参加費無料



▲川崎市子ども夢パーク

「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を目指してつくられた、子どもの、子どもによる、子どものための施設。2003年7月オープン。

子どもの権利条約とは？

国連の子どもの権利条約は、各条項で規定されている内容ごとに大きく4種類に分類することができます。

子どもの権利条約 4つの柱

- 生存** 生きる権利
- 発達** 育つ権利
- 保護** 守られる権利
- 参加** 参加する権利

★ 詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。



「外務省＞児童の権利条約」→

子どもの権利条例とは？

川崎市の子どもの権利条例は、子どもたちの意見を取り入れて、7つの柱にまとめています。

子どもの権利条例 7つの柱

- 1 安心して生きる権利
- 2 ありのままの自分である権利
- 3 自分を守り、守られる権利
- 4 自分を豊かにし、力づけられる権利
- 5 自分で決める権利
- 6 参加する権利
- 7 個別の必要に応じて支援を受ける権利



「川崎市＞子どもの権利に関する条例について」→



大会スローガン「手を取り合って、にじいろの未来へ笑顔で歩もう！」

全国フォーラム開催に向けて実行委員会が発足し、第1回実行委員会は4月25日(日曜日)に開催され、会場となった川崎市子ども夢パークの多目的ホールとオンラインで80名を超える参加者がありました。

まず、子どもの権利条約ネットワーク代表の喜多明人さんのお話「子どもの権利条約フォーラムとは何か？」で共通認識を高め、本格的に始動です。「子どもの権利フォーラムなのだから、子どもからも実行委員長を！」と子どもたちが希望し、大人2人、子ども2人、4人の実行委員長で進めていくことが決定しました。

実行委員会のメンバーは、保護者や学校関係者、NPO 団体などの大人たち、子ども会議などに所属する子どもたちと、さまざまな顔ぶれです。月1回のペースで開催される実行委員会では、認定NPO法人フリースペースたまりば理事長の西野博之さんが司会を務め、会場から、オンライン上から、活発に飛び出す発言をとりまとめていきます。子どもグループ会議も開催され、リーダーの高木もかさんを中心に子どもたちの意見をまとめていきました。

コロナ禍の開催準備、世の中の状況に応じて変更を余儀なくされることが多々あります。様々な場面を想定した準備は苦労が多いようです。そのような中でも、子どもグループ会議で決定した大会スローガンの下、フォーラムの成功、そしてその先を見据えて、大人も子どもも手を取り合って準備を進めています。

全国フォーラムの詳細については、「子どもの権利条約フォーラム 2021in かわさき」のホームページをご覧ください。



▲会場とオンラインを併用した会議



▲子どもグループ会議について報告する子ども委員



フォーラムは川崎らしい取組を始めていくスタートライン



▲(左から)高尾知永さん、福井聖太さん、前川友太さん、山田雅太さん

4人の実行委員長に話を聞きました。

高尾知永さん このフォーラムを、川崎の子どもたちと地域、子どもたちと大人たちをつなぐような場にしたいです。その間の架け橋に私たちがなりたいと思っています。

福井聖太さん 一人ひとりに権利を知ってもらい、考えてもらうきっかけとなるようなフォーラムにしたいです。そして、スローガンにあるように、にじいろの未来につながっていくことを願っています。

前川友太さん 私は、川崎にあるすべての子ども会議を制覇した唯一の男だと自負しています。この活動を経験して感じたのは、「子どもの声を真剣に聞き、それを実現しようとしてくれる大人がたくさんいる」ことでした。素晴らしい大人がたくさんいることは、川崎市の魅力だと思います。子どもと大人がタッグを組んで、川崎らしさをつめこんだフォーラムを創り上げようとしています。ぜひご参加ください！

山田雅太さん 私と「子どもの権利」の関りは20年余り前の条例策定時まで遡ります。条例中に子どもの言葉が反映されるように努力し、最後に子どもたちとまとめた「おとなが幸せに」というメッセージは、母子手帳に載るほどの有名な言葉となりました。フォーラムでは、多くの全国の子どもたちと結び、子どもたちの意見が飛び交う、川崎らしい子どもたち中心の大会ができればと考えています。皆さんも積極的な参加とご協力をお願いします。

▲川崎市子どもの権利条例施行20周年記念出版『今だから明かす 条例制定秘話』

編 集：かわさき子どもの権利フォーラム
発行協力：川崎教育文化研究所
本体価格：1,400円(税込1,540円)
発行年月：2021年6月
出 版 社：株式会社エイデル研究所



■問合せ：事務局 かわさき子どもの権利フォーラム

メール crcf2021kawasaki@gmail.com

TEL 070-8995-5264

「子どもの権利条約フォーラム2021inかわさき」ホームページ→



施設めぐり

市内公的施設の紹介

高津区

地名資料室

JR南武線「武蔵溝ノ口」駅下車 徒歩5分
東急田園都市線「溝の口」駅下車 徒歩6分

川崎に限らず

全国の地名に関する資料がずらり

川崎市生活文化会館(てくのかわさき)の4階に、川崎市教育委員会事務局文化財課が運営する地名資料室があります。その名の通り、地名に関する資料を集めているほか、市域の文化財や民俗関係の報告書等も所蔵しています。ずらりと並んだ書籍、閲覧席で静かに調べものをする人、アカデミックな雰囲気が漂います。

書籍や地図などの所蔵資料数は約6万点。特に昔の郡や村の歴史を記した書物(郡誌・村誌)の収集には力を入れていて、日本全国各地のものがあります。

区画整理事業や住居表示等によって古い地名はどんどん消滅していますが、村誌や郡誌、古い地図などには地名が残ります。これらは昔を紐解く大きな手がかりとなるのです。

手に取って見ることができる書棚には利用頻度の高い資料が配架され、それ以外は書庫に保管されています。来室前に、探したい資料や調べたいことについて、電話・ファックス・メールで連絡すると、資料探しがスムーズです。また、探し方や調べ方が分からない時も職員に相談してほしいとのことです。

地名資料室の教育普及事業

夏休みの事業(毎年7月から8月頃)

夏休み期間中に「シールで学ぶ川崎の地名&夏休み学習相談」を開催。予約制で、職員が自由研究や課題について相談に乗ってくれるため、多くの小学生、中学生、高校生が訪れます。

地名散歩(毎年10月から11月頃)

地名から川崎市の歴史・風土・文化を訪ねる、座学とまち歩きがセットになった講座。毎年、定員を上回る応募がある人気講座です。

地名塾(毎年1月から2月頃)

市域や周辺地域の地名に関して、さまざまな分野、角度から学ぶ連続講座。これまで知らなかった新たな発見があるかもしれません。

今年度の募集は12月頃から開始予定です。

地名から歴史や文化を探る

職員の射越武男さんは、「これほど一つの専門的な分野で参考になる文献や資料が揃っている施設は、ちょっとほかにはないかなと思います。閲覧のみですが、ここで書名を調べて図書館で借りるという利用の仕方をする人もいます。地名は、土地の形態や成り立ちからきていたり、統治の歴史からきていたり、土地が持つ特性のメッセージが込められています。一つではなく幾つもの視点があり、地名はその地域の人々のこれまでの生活や思いを背負っているのだなと重みを感じます。知れば知るほど奥が深いのです」と話します。

家の周り、職場の周りの地名について調べてみると、視界が開けて、まち歩きもより一層楽しくなりそうですね。



▲ 資料室内の様子



▲ 全国の地名辞典が並ぶ書棚

アクセス



閲覧は無料です。
どなたでもご利用になれます。

▲ 地名資料室 入口



川崎市文化財保護推進キャラクター
シッシー君

各事業・講座の詳細については、実施前にお知らせします。日程や申込方法など、詳しくは、区役所、市民館、図書館等で配布されるチラシや川崎市教育委員会のホームページをご覧ください。

「地名資料室の
教育普及事業」→



■ 問合せ:

川崎市教育委員会事務局文化財課 地名資料室
〒213-0001

川崎市高津区溝口1-6-10

川崎市生活文化会館(てくのかわさき)4階

電話 044-812-1102

FAX 044-812-2079

メール 88bunka@city.kawasaki.jp

開室閲覧時間: 午前9時から午後4時30分

休室日: 毎週月曜日、祝日、年末年始



いつでも どこでも だれでも 生涯学習 川崎市生涯学習プラザ 夏の報告

おかげさまで当財団は昨年創立30周年を迎えました。今号では、ライフステージに応じた一人ひとりの学びと活動を支援する、当財団の事業の一端をご紹介します。

夏休み特別講座

たのしいキッズセミナー

生涯学習プラザは、毎年夏の数日間、多くの子どもたちと講師の皆さんで賑わいます。職員もいつもよりウキウキ、ソワソワ。今年も7月19日から22日の4日間、梅雨明け後の猛暑の中、オリンピックに負けず劣らずの熱気に包まれました。

キッズセミナーは、学校の夏休み中に学習機会の充実を目指し、子どもたちの健全な育成と豊かな人間性を育むことをねらいとしている青少年学校外活動事業の一つです。NPO法人教育活動総合サポートセンターと協働して、平成18年から実施しています。対象は小学3年生から6年生。今年は21の講座を実施し、4日間で延べ664人の小学生が参加しました。

さあ、はじまります



正面玄関前で
子どもたちをお出迎え。

楽しい英会話遊び



簡単な英語を使って、
みんなで楽しくゲーム遊び

算数レベルアップ



マジックのような数や
計算のふしぎを楽しみました。

講師の皆さんはもとも教壇に立っていた方々なので、子どもたちの好奇心をくすぐりながら、分かりやすく進めていくところはさすがです。悩んでいる子どもにはすぐにサポートの方が近寄っていき、答えを教えるのではなく、ヒントを与えて考える力を伸ばしていました。

「学校の学習や活動で培った力をベースに、個々の興味や関心を広げたり深めたりする機会こそ夏休みだと思います。今年もそのような素敵な時間を、参加してくれた川崎市内の多くの子どもたちとともに過ごせたのがとてもうれしいです。子どもたちを送り出してくださった各ご家庭の皆さん、ありがとうございました!」と、当財団の担当職員(実はこちらも元小学校長)。迎える保護者にその日の講座の様子を報告したり、作品を見せたりしている子どもたちを、ニコニコ笑顔で見送っていました。

おもしろ科学



空気砲を作り、空気の
ふしぎを調べました。

わくわく造形教室



“自然からのおくりもの”

楽しい理科



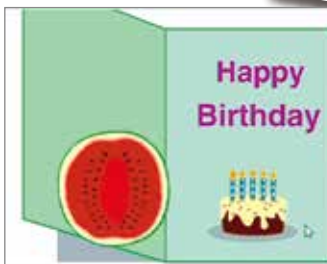
光や色について学び、
ふしぎな万華鏡を作りました。
出来上がりに大満足。

夏休みスペシャル企画 はじめてのスクラッチ

ここ数年、小学校でのプログラミング学習が注目されだしていますね。少しでも体験してみたいという子どものために、8月1日に特別教室を実施しました。

子ども向けプログラミング専用ツール「スクラッチ」を使って、イラストが動いたり、音楽が流れたりするメッセージカードを作るという内容で、参加した10人全員、素敵なカードを作ることができました。

この特別教室では、当財団のPCボランティア養成講座修了者がサポートに入って活躍しました。



2021子ども陶芸教室

夏休みの人気講座の一つに、小学5年生から中学2年生を対象にした、「子ども陶芸教室」があります。今年は感染予防対策として、定員を24人から15人に減らしたこともあり、抽選倍率がいっそう高くなりました。

1日目(7月18日)はマグカップ制作。力を込めて粘土を捏(こ)ね、粘土を板状に伸ばし、曲げたり、くっつけたりしながら形をつくる“たたらずり”という手法で形成します。余った時間で小皿なども作りました。

2日目(8月1日)は絵付けを行いました。あらかじめ乾燥・素焼きを行った器の表面を滑らかにし、思い思いに彩っていきます。釉薬(ゆうやく)は、液の段階と焼いた後では色が変わるので、焼き上がりを想像しながら選びます。

子ども陶芸教室には、財団の一般向けの陶芸教室受講生の皆さんに、身につけた技術を生かし、ボランティア先生としてご協力いただきました。とても丁寧に教えてくださったので、初めての子どもでも安心して陶芸に挑戦することができました。

子どもたちの作品は、本焼きし、後日返却しました。宝物のように大切に持ち帰る姿が印象的でした。

当財団はこれからも、市民の皆さまの健康で生きがいのある豊かな生涯学習社会の実現と、市民の参加・協働による市民主体のまちづくりに寄与することを目指します。

財団主催の講座や川崎市生涯学習プラザの施設予約について、詳しくはホームページをご覧ください。



感染予防対策



一人ひとり、作業スペースが区切られています。

お世話になった皆さん



優しく教えていただき、ありがとうございました!

素焼きした器を滑らかに



スベスベになあれ。

絵付け作業



何色にしようかな?

力作が完成



自作のマグカップや器、使うのが楽しみです。

◆お楽しみコーナー

Stage Up 239号
クイズに答えよう!



川崎市文化財保護推進キャラクターの〇〇〇〇君は、市域3か所(幸区小向、宮前区初山、多摩区菅)に伝わる獅子舞から生まれた文化財の精です。性格はおちょこワイルド、好物はかわさき育ちの野菜と果物、口癖は「シッシシシー」。

下の〇にあてはまる言葉を入れてください。

『〇〇〇〇君』 ※ヒント p.6

【応募方法】

①答え ②〒・住所 ③氏名 ④Stage Upの入手場所
⑤今号の誌面でよかった記事(理由)を書いて、はがき、FAX、Eメールで担当宛、応募してください。

※締切 2021年11月15日(月) 必着

※正解 ホームページ及び次号に掲載

※正解者3名に500円の図書カードを贈呈
(発表は発送に代えさせていただきます)

〒211-0064 中原区今井南町28-41

川崎市生涯学習財団 Stage Up(ステージアップ)担当

Eメール:stage-up@kpal.or.jp

TEL 044-733-5811 FAX 044-739-0085

※個人情報、発送業務以外の目的では使用しません。



☆238号のクイズの答え・・・レッサー

みんなで! Frontale 川崎フロンターレを応援しよう!!

川崎フロンターレ公式ファンクラブ 川崎フロンターレ後援会

GO オフ ロ

事務局 0570-03-5026 川崎フロンターレ後援会 検索